



1月28日、これまで2回の事前研修を経てついに、「高校生による海外エネルギー事情研修会」が始まりました。

1日目は朝、八戸を発ち、昼頃に東京へ到着しました。その後、バス移動でスウェーデン大使館、フランス大使館へ訪問しました。スウェーデン大使館ではスウェーデンの気候や歴史、エネルギー事情について詳しく教えて頂きました。フランス大使館では通訳の方を通して、フランスを訪れる上での抱負について話しました。また、フランス大使館では敷地内にある公邸に入る、という貴重な経験が出来ました。

2日目は11時40分に羽田を経ち、パリのドゴール空港まで12時間かけてのフライト、そして空港からホテルまでバスで向かう、という移動の日でした。私は飛行機に乗ることが初めてで、時差も経験したことがありませんでしたが、フランスへ行ってからのスケジュールを思うとワクワクして時間があっという間に感じました。バスでの移動は、雪や渋滞の影響により、移動時間3時間の予定が6時間程かかりましたが、ちょっとしたアクシデントも貴重な経験だと思いました。

3日目、朝食を終えてホテルを出た後、世界遺産のモンサンミッシェルへ向かいました。途中、周りの民家を見ましたが、庭で作物を栽培していたり、家畜を放牧していたりと私の地元ではなかなか見られない光景でした。モンサンミッシェルに到着してからたくさんの階段を登って聖堂まで行きました。モンサンミッシェルは遠くから見ても近くで見ても圧巻で、1300年も前に岩肌に沿って設計し、建設した技術はすごいものだと改めて実感しました。

4日目、この旅行のメインの一つともいえるオラノ社ラアーク再処理施設の見学へ行きました。11月の事前研修で日本原燃の六ヶ所再処理工場を見学しましたが、ラアーク再処理施設は見た目から違いがありました。日本の施設がほとんど白っぽいデザインでしたが、ヨーロッパでは街並みに馴染むようなデザインがされていました。施設の広報担当の方からオラノ社がどのような取り組みをして、どのような安全対策をしているのかを説明して頂きました。説明後は高濃度の放射能廃棄物を扱う場所を見せて頂いたり、ガラス固化体が保管されている場所に入ることができたりと施設内の見学はとても有意義なものでした。見学後に、オラノ社の方々と会食をしましたが、そこで語学勉強への考え方が一気に変わりました。

---

それまで私は、英語は勉強・高校で学ぶものという捉え方をしていましたが、自分の意見を伝える手段として有効なツールであると思いました。日本では書いたり読んだりする勉強方法が主流ですが、フランスではコミュニケーションをとりながら学んでいく「話す英語」が主流だそうです。いつかまた会話ができるような能力をつけてからもう一度フランスへ来たいと思いました。

5日目はシェルブールのグリニャール高校の生徒との交流です。朝から不安でしたが、グリニャール高校へ行くと私たちを笑顔で受け入れてくれました。日本語を少し話せる人もいて、日本の文化やアニメが好きで学んでくれていることがとても嬉しく親近感がわきました。エネルギー事情についての意見交換では、フランスの生徒もプレゼンテーションをして、その中でフランス政府は原子力の使用割合を低くし再生可能エネルギーを推進している、という話が印象的でした。原子力発電は二酸化炭素を排出しませんが、放射性廃棄物は必ず出てしまいます。今は利用できるかもしれませんが、1～2世紀経った後も利用できるようには思えません。日本も再生可能エネルギーを推進し、日本国民全員で理解していく必要があると思いました。有意義な意見交換の後は文化交流と食事でした。単語やジェスチャーで理解してくれる人が多く、私が不安に思っていた言葉の壁はありませんでした。

6日目、パリ市内の観光やルーブル美術館へ行きました。美術館ではモナ・リザやミロのヴィーナスを見ることが出来ました。教科書に載っているような作品を見るのはとても不思議でした。

7日目はノートルダム寺院等を見学した後に、ストックホルムへのフライトの予定でしたが、航空機の機体トラブルで私たちが乗る便が運休となり、このため6時間以上も空港で待たされ、その結果、翌日の運航に振替えられることとなり、この日はもう一泊パリに泊まることになりました。身体的にはとても疲れましたが、これもまた貴重な経験だと思います。

8日目はストックホルムの市内見学の予定でしたが、前日の影響により移動の日となり、夜の8時頃ようやくストックホルムに着きました。ストックホルムは、スウェーデン大使館の方が言っていたように、針葉樹が多く、フランスと比べるととても寒く青森に似たような気候だと感じました。

9日目はフォルシュマルクの技術高校へ訪問しました。技術高校では数学の授業を見学させていただきましたが、日本の授業とは違った雰囲気でした。スウェーデンでは座る場所がフリーであり、ドリンクを飲みながら授業を受けてもよかったりと、とてもラフな雰囲気な授業でした。日本でも質問や意見等しやすいラフな雰囲気の授業を取り入れるべきではないかと思いました。その後、その生徒たちと中低レベル廃棄物貯蔵所の見学をしました。ここで一番印象に残っている話は、最終処分場を引き受けることでの補助金が出ないということです。補助金が出ないにも関わらず、この地での処分場建設が選定された、というのはSKB社での安全に対する取り組みが地域に理解されている証拠だと思います。地元の方々と多くの集会やセミナー等を通じて対話活動を継続して、質問に対しては専門家に確認してから必ず返答するといった活動を繰り返すことによって、信頼関係ができあがったそうです。こうしたことは、日本の企業でも取り入れた方が良くと思いました。

10日目はカテドラル高校との交流です。自己紹介、校内見学の後にエネルギーについての意見交換会をしました。生徒は原子力反対派、賛成派、いろいろな電源をミックスして使うべきと主張する者、と様々な考えを持っており、非常に考えさせられることが多い意見交換となりました。スウェーデンの人たちと比べると日本はあまりにもエネルギーに関して無関心であり、メディアの情報に左右されすぎなのではないかと感じました。カテドラル高校の生徒はみんな自分の意見を筋道立ててしっかりと話していました。

海外での高校生との交流を経験して、私は日本でも、次のような取り組みが必要だと感じました。

- ①義務教育からエネルギーの種類やそれぞれのメリット、デメリット等についての授業を取り入れること。
- ②原子力発電に関わる企業が、学生に直接説明する機会を設けること。

私は事前研修会の段階では原子力発電の割合を増やしていくべきだと思っていましたが、今回の海外研修で原子力発電に頼りすぎではだめだという考えに変わりました。原子力発電には事故が発生した時のリスクがありますが、しっかりとした安全対策でそのリスクは低減します。私がかっと怖いと感じたのは放射性廃棄物が出る、という点です。今はまだ放射性廃棄物を貯蔵する場所がありますが、その場所はどんどん無くなっていくものです。



ですから、原子力発電は新しいエネルギーや再生可能エネルギーを安定させるまでの繋ぎに使用し、一つのエネルギー源に依存することなく、エネルギーミックスしていくことが現時点での最善策だと思います。

考えさせられることが多い意見交換を終えて次の日、日本への帰路へ着きました。飛行機の中で改めて感じたのは「本当に貴重な体験をした」ということです。この海外エネルギー事情研修会はどうせ受からないと思い、一度諦めようとした研修会です。今までの私は言い訳を並べてたくさんの方のことを諦めてきました。ですが、今回の研修会に参加して「諦めてはいけない、何事においても挑戦するべきだ」という人生において大切なことにも気づきました。この研修会で学んだ多くの事を無駄にしないよう残りの高校生活を過ごし、またフランス、スウェーデンに戻ってこようと思います。

最後に、この「高校生による海外エネルギー事情研修会」には、たくさんの方々が関係してきました。私の家族をはじめ、この研修に関わる全ての方々へ感謝いたします。本当にありがとうございました。

